

令和5（2023）年8月10日

第1回 東京グリーンビズアドバイザーボード

【古谷政策企画局長】

それでは皆様お揃いになりましたので、定刻より少し早いですが、第1回東京グリーンビズアドバイザリーボードを始めさせていただきます。

今回オンラインでのご出席の委員も含めまして、7名の委員の皆様にご出席を頂いております。本日は、お忙しい中ご出席を頂き、誠にありがとうございます。本日司会を務めます政策企画局長の古谷でございます。よろしくお願いいたします。

本日のスライド資料はお手元のタブレットからご確認ください。

それでは、開会にあたり知事よりご挨拶申し上げます。

【小池知事】

皆様、こんにちは。本日はお忙しいところ、第1回の東京グリーンビズアドバイザリーボードの会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。またオンラインでのご参加、ありがとうございます。

最近の気候は読めない。そして想定を超える勢いで雨が降り、線状降水帯という、学校の教科書では習わなかったような言葉を、普通の会話で使うようになってきている状況でございます。激甚化することでまちが壊れ、人々の生活が脅かされ、農産品にも大きな被害が出ており、生物多様性にも大きな影響を与えております。そうした中で、東京に都市として求められる機能や人々の価値観が多様化する中で、どのようにして都市における生活、人、まちをつくっていくのか、大きな転換点に来ていると思っております。

そうした中で、柱として改めて緑、グリーンを置いていきたいと考えております。安全でサステナブルな都市をつくることは勿論、人と人とのふれあいや憩いを生み出すこと、四季の彩りなど歴史や文化を形成すること、そこには必ず緑という存在があるかと思えます。かつて後藤新平、渋沢栄一といった先人たちも100年先を見据えたまちづくりをしてきました。そうした意志を引き継ぎながら、サステナブルな社会を実現していくという使命を感じております。

貴重な緑を守って、また緑溢れる豊かな社会を次の世代へいかに繋いでいくのか、という強い思いから、新たにテーマを「東京グリーンビズ」として、皆様方のご専門のご意見を頂戴したいと思っております。これまでは「(仮称)」としてきましたが、既にプロジェクトは動き出しておりますし、本日から改めてこの「東京グリーンビズ」として、皆様と議論を深めていきたいと考えております。そしてさらに東京の緑の価値を高めていきたいと考えております。

クールビズを2005年に大々的に始めましたが、今度はクールビズならぬグリーンビズで、しっかりと東京の緑をまもって、そしてまた増やして、つないで、さらには活かしていきたいと考えております。都民そして民間の皆様と共に、加速度的にこのプロジェクトを展開していきたいと思っております。

緑と言いましても本当に幅広いものがございます。皆様方の専門の知識やご経験、さら

には提言を生かして、東京をグリーンビズのまちにしていきたいと考えておりますので、どうぞ協力宜しくお願い申し上げます。

2. 委員紹介及び挨拶

【古谷政策企画局長】

続きまして、委員の皆様のご紹介に移らせていただきたいと思います。委員の皆様方から名前と専門分野を含めて、簡単に自己紹介を頂ければと存じます。それでは会場にいらっしゃる方から、始めに小川みふゆ様、お願いいたします。

【小川みふゆ委員】

小川みふゆと申します。東京大学大学院農学生命科学研究科の保全生態学研究室というところにおります。若手の研究者の方と同じ部屋で切磋琢磨させていただいています。あわせて、私は文京区の生物多様性地域戦略協議会の区民委員も兼ねております。元々私は森林生態から研究に入り、その後森林に留まらず広く植生を学びながら、生物多様性保全、生態系サービスの評価などへ研究を展開しています。近年は社会－生態システム、文理融合の部分で人と自然について考える研究に取り組んでおります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。続きまして、小林光様、お願いいたします。

【小林光委員】

小林光です。先ほど知事の方からもお話ありましたけれども、ずっと環境省に37年間勤めていまして、長くお仕えしました。元担当は公害とか環境行政一般なんですけれども、特に大事なのは生態系の一部に人間がきちっとなっていていかなきゃいけないなあと、いうふうに強く感じております。最近は二地域居住で長野の方におりまして、今日も八ヶ岳を仰いで運転して来ましたが、本当に緑豊かなところではあるんですけども、緑を管理する人がいなくなっちゃったんで、そういう意味で人間がもっときちっと管理をするような新しい時代の緑っていうのを東京からも始めていただけたらなあと、いうふうに思って参加させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。続きまして、酒井秀夫様、よろしくお願い申し上げます。

【酒井秀夫委員】

酒井秀夫でございます。6年前までは東京大学の森林科学専攻で教鞭を執っていました。現在は日本木質バイオマスエネルギー協会では木材のエネルギー利用に携わっております。

専門は森林利用学で森林資源の有効利用を専攻しています。この分野が表に出てくるということは、それだけ文明とか生存の危機に直面しているのかなど、今非常に大事な局面ではと思います。幸い東京都には森林資源がないようでしっかりありますので、ここで林業の振興と、都民が安心して暮らしていけるように取り組んでまいりたいと思います。東京都の林業振興に向けた専門懇談会にも関わっておりますので、この会と併せて一生懸命頑張りたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。続きまして、島谷幸宏様、お願いいたします。

【島谷幸宏委員】

こんにちは、島谷です。私は今、熊本県立大学の緑の流域治水研究室という研究室にいます。球磨川で洪水があったときに、熊本県が緑の流域治水という治水と環境の保全みたいなものを合わせた政策を立案されまして、それを実行するための研究分野として招聘されております。

元々建設省、土木研究所に勤めておりました、その後大学に移り環境省のトキの野生復帰の時の研究リーダーをやっていたり、河川工学が専門といいながら川のどちらかというと環境の方が専門で、だんだん災害の方もやるようになったという感じです。

現在はグリーンインフラ・ネットワーク・ジャパンというグリーンインフラの全国組織があるんですがその共同代表をやったり、来年2月にその全国大会をやるんですがその実行委員長をやったりということで、今グリーンインフラを日本国内に広げるために色々頑張っているところです。よろしく願いいたします。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。続きまして、下村彰男様、よろしく願いいたします。

【下村彰男委員】

下村でございます。現在は國學院大學に1年半前に新しくできた観光まちづくり学部という、観光を活用した新しいまちづくりの方法論を構築するとともに、そのための人材を育てようという学部にあります。専門は造園学という分野で、実は知事が環境大臣をされていた頃にエコツーリズムの会議で一緒させていただいたことがありまして、国立公園ですとか都市の公園ですとかを扱ってきております。

専門は風景計画という、あまりお聞きにならない分野だと思うんですけども、地域の歴史的あるいは自然的な文脈をどのように風景から読み取るかということと、それをどのように将来に向けて演出するとか、新しく形作っていくかという方法論の考究を専門にしております。緑も大きな転換期を迎えていると認識していますので、上手に発信していただきたいという期待も持ちつつ参加をさせていただきました。よろしく願いいたします。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。続きまして、オンラインでご参加の安藤光義様、お願いいたします。

【安藤光義委員】

オンラインでの参加となり大変申し訳ございません。東京大学の安藤と申します。専門は農政学、農業政策、特に農地制度でございます。農家の相続、相続税問題で学位を頂いております。東京の農地が減少している最大の要因がこの相続税だと考えておりました、それでこの会議からお声が掛かったのではないかと推測しております。どうかよろしく願いいたします。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。続きまして、吉高まり様、お願いいたします。

【吉高まり委員】

吉高でございます。私はエネルギーから森林吸収源までのカーボンクレジットの組成に始まりまして、気候変動ファイナンス、また今ですと ESG 投資ですとかサステナブルファイナンスの領域でコンサルティングなどをしてまいりました。

最近では気候変動ファイナンスというと CO2 のカーボンクレジットだけではなくて、適応ファイナンスですとか、また ESG の S におきましては人権とかウェルビーイングとか、気候変動とそういった社会課題がほとんど同義語に語れることもありまして、非常に幅広い分野でファイナンスの視点で研究させていただいております。

また大学生にも教えておりますので、なるべく若い方をこういった場に来ていただけるような何か貢献ができればと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

【古谷政策企画局長】

ありがとうございました。なお、伊藤香織様、小澤杏子様は所用により本日は欠席です。

本日は委員の皆様のご協力を頂きまして、実りある議論をしていただければと存じます。よろしくお願いいたします。なお、知事は公務のためここで退席をさせていただきます。

(知事退室)

【古谷政策企画局長】

お待たせいたしました。それでは、次の議題に移りたいと思います。本日はお集まりの皆様、東京都の緑の取組をご紹介させていただきたいと思います。佐久間計画調整部長からご説明させていただきます。

【佐久間計画調整部長】

計画調整部長をしております、佐久間と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。まず、これまでの取組ということで次の3ページをご覧ください。まず緑に関する現状ですが、東京の緑は減少傾向にあるものの、公園整備とか生産緑地の保全、あらゆる機会を捉えまして、緑の創出等に努め、近年は横ばいで推移しているものと認識してございます。

続きまして4ページ目です。東京都におきましては今、長期戦略、総合計画でございしますが、「『未来の東京』戦略」というものをつくってございまして、その中で「緑溢れる東京プロジェクト」というものをつくってございまして、その中で2030年までに、政策目標を立てて、様々な取組を展開しているところでございます。

具体としましては5ページをお開き願います。例えば都立公園の整備、海上公園の整備など、政策目標を立てて着実に進めてきているところでございます。

次に6ページでございまして、生産緑地につきましても、30年という期間の経過後も特定生産緑地に移行、指定していただくことを働きかけまして、農地の保全に努めてきているところでございます。また、森林環境や里山等の保全する保全地域につきましても、その指定地域の拡大を図ってきているところでございます。

次に7ページでございまして、右側に示す通り、西新宿地区や丸の内仲通りにつきましても、公共空間を活用し、緑あふれる人が憩う場などの創出にも努めてきているところでございます。

続きまして8ページでございまして、東京高速道路、KK線と呼ばれていますが、そこにつきましても、緑に囲まれたネットワークの再生ということで進めていきたいというふうに考えてございまして、今のところは高速道路ですが、将来的にはこのような形に進めていきたいと考えてございまして、また都心3区におきましては、まちづくりと併せた緑の創出等におきまして、こちら千代田区、中央区、港区の事例でございまして、緑被率が上昇してきているということが実態としてございまして。

続きまして9ページでございます。海の森公園での植樹、公園での子どもとの花壇づくりなど、様々なイベントなどを実施してきております。また「花と緑の東京募金」などの基金を活用しまして、都民や企業の支援などによる緑化事業も推進するなど、都民や民間とも協働した取組を進めてまいりました。

以上のような取組を進めてきた一方で、緑を取り巻く社会環境は刻々と変化してきております。11ページに概要を大体まとめておりますが、社会環境の変化、それに対して求められる役割というようなところで、我々なりに少し整理させていただいております。大きく5つ事例を挙げておりますが、例えば①気候危機とそれに伴う自然災害の激甚化の中において、緑の機能を活用した社会課題の解決が求められているということ。また2点目としましては、新型コロナの流行を経て、人々の価値観に変化が生じ、都市に求められるニーズも変わってきているということ。3点目としましては、生物多様性について、昨年のCOP15で「ネイチャーポジティブ」という新たな取組が掲げられ、生物多様性の更なる保全が求められているということ。4番目は、木材がサステナブルな素材として注目を集めており、その活用に向けて、森林の適切な循環が必要ではないかということ。5番目、世界的食料需要に対しまして、資源の有効活用が必要となっていており、持続可能な農業へのシフトが求められてきているということ。詳細は、それらにつきまして次ページ以降をご覧くださいまして、少しデータ等も示しながらまとめさせていただいております。

こうしたことも踏まえまして、25ページでございますが、今回東京都として「東京グリーンビズ」というのをまとめさせていただいております。人々の生活にゆとりと潤いを与える緑の価値を一層高め、100年先を見据え、都民の皆様とともに、未来に継承していく。こうした考え方下、プロジェクトを展開していきたいという考え方を整理させていただいております。具体的には、東京の緑を「まもる」「増やし・つなぐ」「活かす」の取組の強化によりまして、都市の緑化や生物多様性の保全等を推進し、自然と調和した持続可能な都市へと進化させていきたいと考えております。

次に29ページでございます。「東京グリーンビズ」で具体的にどのようなことに取り組みでいきたいということで、イメージを示しております。緑を「まもる」取組では、樹木を守る新たな仕組みを創設することや、農地の保全、自然地の保全の促進などを進めていくことをイメージしております。緑を「増やし・つなぐ」取組では、いわゆるグリーンインフラの導入や、公園整備、緑の拡充、ネットワーク化などを進めていきたいと考えてございます。「活かす」取組につきましては、都民との協働や、農林業の振興、自然地の活用などを進めていくこと、こうした視点から取組を強化していきたいというふうに考えてございます。

続きまして34ページでございます。只今説明しました「東京グリーンビズ」を推進していくにあたり、有識者の先生方のご意見を是非賜ればというふうに考えてございます。

以降、後ろのページにつきましては、その他関連データ等をお示ししておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

簡単ではございますが、概要につきまして以上です。

【古谷政策企画局長】

東京都の緑の取組についてご説明させていただきました。それでは、ここまでで公開は以上となります。プレスの皆様はご退室を願います。

(プレス退室)